

## 菓子会社が見失ったもの

ここしばらく、某菓子会社が賞味期限切れ問題で世間を賑わせましたが、こういうことは、食に係る業界ではすべからず起り得ます。私たち弁当の業界も、むしろ例外ではありません。食材卸が特定の商品を大量仕入れすると、必ずいくらか残るもので、その賞味期限が迫ると、営業マンが、「後三日で賞味期限切れですから、半額でいかがですか」などと持ち掛

ねられます。保健所あたりから指導があつていたのでしようが、基準に合うカロリー値かどうか、そればかりが気になるようなのです。

こういうことに出くわすたびに、前からこのコラムでも訴えてきた「命」に対する視点が、欠落していることを感じます。カロリーという物差しで計ると、例えば、白米も玄米も変わりありません。しかし、これを土に巻くと、白米は腐るだけですが、玄米は発芽します。玄米には命が宿っているのです。こういう命の大切さ

## ハタさんの食の本懐 ②



を感じ取る心が、件の菓子会社の企業文化として養われていたならば。今回のような問題は起こらなかつ

たのではないでしょうか。

けて来ることが、少なからずあるわけです。一歩間違うと取り返しのつかないことになりかねません。それにしても気になるのは、こんなとき食材が、食べ物というより、単に商品として取扱われていることです。もちろん、商品には変わりないのですが、やり取りに心がこもっていません。商品を流しさえすればよいのです。

こんなこともあります。私の会社では、保育園の給食用に弁当を納めているのですが、園の先生から、よくカロリー総量について尋

く、その食べ物  
の命を認識する  
こと、それをあ  
りがたくいただ  
くことです。そ  
うすれば過食が  
なくなり、肥満  
や高血圧などと  
無縁でいられる  
はずで

桑善尚 (はた・よしたか)

昭和31年、福岡県福津市生まれ。幼稚園・保育園の仕出し弁当やオフィス弁当などを宅配する有限会社レモンの社長。「健康」にこだわり、日本古来の食に対する知恵を弁当に生かそうと、日夜努力を続けている。

ホームページ <http://www.limon-zen.com/>